

V 花 き

1 花き病害虫

花き病害虫重点防除指導方針

本県農業の活性化および農業所得の向上を図るためには、これまで以上に園芸振興への取り組みが重要な課題となっている。

このため、数多くの品目の中から戦略的品目、基幹品目と地域特産品目を指定し、生産振興のための各種施策を積極的に実施している。

収量・品質の高位安定化を図るため、防除の指導に当たっては、それぞれの病害虫の生態や薬剤の性質を熟知し、耕種的防除対策に努めるとともに、病害虫の発生動向に注意して適正に防除する。

1 耕種的防除の推進

- (1) 有機物の施用、深耕等による土づくりを推進し、健全な生育に努める。
- (2) 排水対策、整枝剪定等により栽培環境を改善する。

2 農薬による防除技術

- (1) 主要病害虫の発消長を明らかにし、適期防除を推進する。
- (2) 農薬抵抗性害虫および耐性菌発生による防除効果の低下を回避するため、同一系統農薬の連用を避ける。
- (3) 同一成分を含む薬剤には使用回数制限があるので注意する。

例. オルトラン水和剤とジェイエース水和剤はそれぞれの薬剤の使用回数制限が2回以内とされている。しかし、両方の薬剤は同一成分（アセフェート）を含む農薬に該当しており、使用回数が両方の薬剤を通して2回以内でなければならない。

- (4) 生育後期には、商品価値を下げないため、葉面や花卉に汚れの少ない薬剤を使用する。
- (5) 薬剤によって品種が変わると薬害を起こすことがあるので、小規模散布を行って薬害のないことを確認する。
- (6) 多量散布、高温時の散布、極端な連用、近接散布などは薬害の出ることがあるので注意する。

(1) キク

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
褐斑病	ダユニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	-	散布	6回以内
	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500~2000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	-	散布	5回以内
黒さび病	ステルス	アゾパム液剤	M3		2000倍	100~400 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	-	散布	8回以内
	マネジ 乳剤	イミベンコゾール乳剤	3		500~1000倍	0.2~0.3 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /m ²	発病初期	散布	6回以内
黒斑病	ダユニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	-	散布	6回以内
さび病	エムダ イアア水和剤	マネジ 水和剤	M3		400~650倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	発病初期	散布	8回以内
白絹病	クロピ クリン	クロピ クリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~5mL<圃場>1穴 当り2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
	クロピ クリン錠剤	クロピ クリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を 30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴 当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1 錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
白さび病	トクロール	クロピ クリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~6mL<圃場>1穴 当り2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
	アンピ ルアロアール	ヘキサコゾール水和剤	3		1000倍	150~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	発病初期	散布	7回以内
	カマアロアール	インピ ルフィルキム水和剤	7	劇	4000~8000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	発病初期	散布	3回以内
	コロアロアール	水和硫黄剤	"UN(I*)		800倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a		散布	-
	サブ ロール乳剤	トリホリン乳剤	3		1000~1500倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
	ジ マンダ イセンアロアール	マンゼ ア 水和剤	"UN(I*)		500~800倍	150~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	-	散布	8回以内
	ステルス	アゾパム液剤	M3		2000~3000倍	100~400 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	-	散布	8回以内
	ストロピ ーアロアール	クレキシムメチル水和剤	11		2000~3000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	発病初期	散布	3回以内
	チルト乳剤25	プロピ コナゾール乳剤	3		3000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	発病初期	散布	3回以内
	トリアミン水和剤	トリアルミゾール水和剤	3		1000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
	トリアミン乳剤	トリアルミゾール乳剤	3		1000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	-	散布	5回以内
	ハシタック水和剤75	メプロニル水和剤	7		500~1000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
	ピリカット乳剤	ジアルメトリム乳剤	39		1000倍	0.2~0.3 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /m ²	発病初期	散布	6回以内
	マネジ 乳剤	イミベンコゾール乳剤	3		500~1000倍	0.2~0.3 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /m ²	発病初期	散布	6回以内
	テリ 乳剤	ミクロア タニル乳剤	3		3000倍	200~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$ /10a	発病初期	散布	5回以内

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
立枯病	クローピ [®] クリン	クローピ [®] クリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~5mL<圃場>1穴 当り2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
	クローピ [®] クリン錠剤	クローピ [®] クリンくん蒸剤	8B	劇	1㎡当り6錠			土壌くん蒸<圃場>「1㎡当り6錠処理」 地表面に所定量を散布処理する。	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
炭疽病	ト [®] クロール	クローピ [®] クリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3~6mL<圃場>1穴 当り2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
	エムダ [®] イア [®] -水和剤	マネブ [®] 水和剤	M3		400~650倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発病初期	散布	8回以内
灰色かび病	エムダ [®] イア [®] -水和剤	マネブ [®] 水和剤	M3		400~650倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発病初期	散布	8回以内
半身萎凋病	クローピ [®] クリン錠剤	クローピ [®] クリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠			土壌くん蒸<床土・堆肥>床土・堆肥を 30cmの高さに積み30×30cm毎に1穴 当り1錠処理する。<圃場>「1穴当り1 錠処理」30×30cm毎に1錠処理する。	2回以内(床土1 回以内、圃場1 回以内)
	エムダ [®] イア [®] -水和剤	マネブ [®] 水和剤	M3		400~650倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発病初期	散布	8回以内
べと病	ア [®] アーム乳剤	エマクチン安息香酸塩乳剤	6		1000~2000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	5回以内
	スピ [®] /エ-ス顆粒水和剤	スピ [®] /サド [®] 水和剤	5		5000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	2回以内
アザミカ類	トクチオ [®] 乳剤	ブ [®] ロチオス乳剤	1B		1000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	5回以内
	ハチハチ乳剤	トルフェンビ [®] フト [®] 乳剤	"21A(I*)	劇	1000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	4回以内
ア [®] ラム類	アインセ-ブ [®] フロア [®] ル	フロメトキン水和剤	34	劇	2000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	2回以内
	モスピ [®] ラン粒剤	アセタミ [®] フリト [®] 粒剤	4A		1g/株		生育初期	株元散布	1回
ア [®] ラム類	ア-デ [®] ント水和剤	アクリナトリン水和剤	3A		1000倍	150~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	5回以内
	ウララ50DF	フロニカミド [®] 水和剤	29		5000~10000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	6回以内
オオカ [®] コガ [®]	オリオン水和剤40	ア [®] ニカルブ [®] 水和剤	1A	劇	1000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	5回以内
	スミチオ [®] 乳剤	MEP乳剤	1B		1000~2000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	-	散布	6回以内
ア [®] ラム類	ア [®] ニキ乳剤	レピ [®] メクチン乳剤	6		1000~2000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	6回以内
	スピ [®] /エ-ス顆粒水和剤	スピ [®] /サド [®] 水和剤	5		2500~5000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	2回以内
ア [®] ラム類	フエニックス顆粒水和剤	フルバ [®] ンジ [®] フミド [®] 水和剤	28		2000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	4回以内

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
コナシ類幼虫	D-D	D-D剤	8A	劇	15～20 ^g / _{10a} (1穴当り1.5～2mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
センチュウ類	クロピ`クリン錠剤	クロピ`クリンくん蒸剤	8B	劇	1穴当り1錠		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
センチュウ類(ハガレセンチュウを除く)	カ`スタート`微粒剤	ダ`ゾ`メット粉粒剤	"8F(*"	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混合する。	1回
	ハ`スアミド`微粒剤	ダ`ゾ`メット粉粒剤	"8F(*"	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混合する。	1回
ネグ`サレセンチュウ	D-D	D-D剤	8A	劇	15～40 ^g / _{10a} (1穴当り1.5～4mL)		作付の10～15日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
ネコノセンチュウ	テロン	D-D剤	8A	劇	15～40 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$ (1穴当り1.5～4mL)		作付の10～15日 日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	ネマトリンエース粒剤	ホスチアゼート粒剤	1B		20～25kg/10a		定植前	全面土壌混和	1回
ネコノセンチュウ	D-D	D-D剤	8A	劇	15～20 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$ (1穴当り1.5～2mL)		作付の10～15日 日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
	テロン	D-D剤	8A	劇	15～20 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$ (1穴当り1.5～2mL)		作付の10～15日 日前まで	1) 全面処理 耕起整地後、縦横30cm間隔の基盤の目に切り千鳥状に深さ15～20cmに所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。2) 作条処理 は種又は植付前にあらかじめ予定された溝に30cm間隔に所定量の薬液を注入し直ちに覆土鎮圧する。	1回
ハスモンヨトウ	オリオン水和剤40	アークカルブ 水和剤	1A	劇	1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	5回以内
ハダニ類	コソフアブル	クロワエビール水和剤	13	劇	2000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	2回以内
	スターマイトフロアブル	シエビラフエン水和剤	25A		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	1回
ハダニ類	テルスター水和剤	ビフェントリン水和剤	3A		1000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	-	散布	3回以内
	ビラニカEW	テラフェビラト 乳剤	"21A(*)	劇	1000～2000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	1回
ハダニ類	アルバリン顆粒水溶剤	ジノフラン水溶剤	4A		1000～2000倍	1 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$	発生初期	灌注	5回以内
	スタークル顆粒水溶剤	ジノフラン水溶剤	4A		1000～2000倍	1 $\frac{\mu\text{L}}{\text{m}^2}$	発生初期	灌注	5回以内
マメアザヒ	スピノサート水和剤	スピノサート 水和剤	5		5000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	2回以内
	ホルトアノ水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	5回以内
	カスケード 乳剤	フルフェキサズロン乳剤	15		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	3回以内

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
マメヒゲリビア	ジエース粒剤	アセフェート粒剤	1B		6～9kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内
ミナキイロアザミカマ	アデント水和剤	アクリトリソ水和剤	3A		1000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	5回以内
	オンコル粒剤5	ベソラカルブ粒剤	1A		9kg/10a		生育期	株元散布	3回以内
	カスケード乳剤	フルフェクソロン乳剤	15		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	3回以内
	ベストガード粒剤	ニトピラム粒剤	4A		2g/株		発生初期	生育期株元散布	4回以内
ミナキイロアザミカマ	オンコル粒剤5	ベソラカルブ粒剤	1A		6～9kg/10a		定植時	植溝土壌混和又は株元散布	1回
					9kg/10a		生育期	植溝土壌混和又は株元散布	3回以内
	コッツプロアール	クロルピリフェル水和剤	13	劇	2000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	2回以内

(2) ストック

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
萎凋病	カスタート [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	30～40kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
	ハスアミド [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	30～40kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
菌核病	ホリバ [®] リン水和剤	イミダクダジ [®] 酢酸塩・ホリオキシ [®] 水和剤	"[-](*)、M7		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発病初期前	散布	8回以内
灰色かび病	ホリバ [®] リン水和剤	イミダクダジ [®] 酢酸塩・ホリオキシ [®] 水和剤	"[-](*)、M7		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発病初期	散布	8回以内
苗木枯病	トクロール	クロービ [®] クリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り 3～6mL<圃場>1穴当り2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
苗腐病	カスタート [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
	ハスアミド [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回
コナガ	オンコル粒剤5	ベンラカルブ [®] 粒剤	1A		0.5g/株		定植時	株元散布	1回
	コツツアブル	クロービ [®] ル水和剤	13	劇	2000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	2回以内
	トアロー水和剤CT	BT水和剤	11A		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	-
	ノモルト乳剤	テアルバ [®] ズ [®] ロン乳剤	15		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	2回以内
	マブ [®] リック水和剤20	フルバ [®] リネート水和剤	3A	劇	2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	2回以内
ハイマダ [®] ラノメイ [®]	モスピ [®] ラン粒剤	アセタミ [®] リド [®] 粒剤	4A		0.5g/株	育苗期	株元散布	1回	

(3) トルコギキョウ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
炭疽病	ジマシダ イオン水和剤	マンゼブ 水和剤	"UN(*)	400倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	8回以内	
アザミウマ類	マブ リック水和剤20	フルバ リネート水和剤	3A	劇	4000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	発生初期	散布	2回以内
ハスモンヨトウ	トレボ ン乳剤	エトフェンブ ロックス乳剤	3A	1000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	6回以内	

(4) スターチス

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
うどんこ病	フルビカ707アール	メハニビリム水和剤	9	2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	5回以内	
	ポリベリン水和剤	イミクダジン酢酸塩・ホリホ シン水和剤	"[-]" (I*),M7	1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	8回以内	
灰色かび病	フルビカ707アール	メハニビリム水和剤	9	2000～3000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	5回以内	
	ポリベリン水和剤	イミクダジン酢酸塩・ホリホ シン水和剤	"[-]" (I*),M7	1000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	8回以内	
シロイロシヨトウ	ロブテール水和剤	イロジオソク水和剤	2	1000～1500倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a -		散布	8回以内	
	カスケード乳剤	フルフェノクスロソソ乳剤	15	4000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発生初期	散布	3回以内	
ハスレシヨトウ	カスケード乳剤	フルフェノクスロソソ乳剤	15	2000倍	100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発生初期	散布	3回以内	

(5) スイセン

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
球根腐敗病	ホ-マイ水中和剤	チクラム・チオアアネ-トメチル水中和剤	1,M3	200倍			植付前又は貯蔵前	30分間球根浸漬	1回
					球根重量の1.0%		植付前又は貯蔵前	球根粉衣	1回

(6) ユリ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
球根腐敗病	ホマイ水和剤	チラム・チオアネートメチル水和剤	1,M3		200倍		植付前又は貯蔵前	30分間球根浸漬	1回
					球根重量の1.0%		植付前又は貯蔵前	球根粉衣	1回
茎腐病	トップジンM水和剤	チオアネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	5回以内
灰色かび病	アエット7077 μL	ベンチレート水和剤	7		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	3回以内
	7 μL ピカ7077 μL	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
葉枯病	ダコニール1000	TPN水和剤	M5		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	6回以内
	トップジンM水和剤	チオアネートメチル水和剤	1		1500～2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	5回以内
	7 μL ピカ7077 μL	メバニピリム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
	7 μL ロサイト水和剤	7 μL アジナム水和剤	29		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	3回以内
	ボリキシンAL水和剤	ボリキシン水溶剤	"[-]" (*)		2500倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	8回以内
鱗茎さび症	7 μL ロサイト水和剤	7 μL アジナム水和剤	29		100～200倍	-	植付前	球根瞬間浸漬	1回
7 μL ラムシ類	ウツ50DF	7 μL ニカミド水和剤	29		10000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	発生初期	散布	6回以内
	トレボン乳剤	イトゲン7 μL ロツカス乳剤	3A		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	6回以内

(7) サクラ

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
てんぐ巢病 アザカシロヒトリ	トリアジンM [®] -スト	チオアゾネートチルピ [®] -スト剤	1	原液		病枝切除後	塗布		5回以内
	アトラック液剤	チメキサム液剤	4A		胸高直径(樹幹部)、6~10cm 30mL、11~15cm 60mL、16~ 20cm 90mL、21~25cm 120mL、26~30cm 180mL、 30cm以上は胸高直径が5cm増す ごとに30~60mlを増量する	幼虫発生前~ 幼虫発生期	樹幹注入	3回以内	
コナカシバ	オクトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B	1500~2000倍	200~700 ^μ g/10a	発生初期	散布		5回以内
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B	1500~2000倍	200~700 ^μ g/10a	発生初期	散布		5回以内
	バシレックス水和剤	BT水和剤	11A	1000~2000倍	200~700 ^μ g/10a	発生初期	散布		-
モクロシヤチコ	スガシバ コナ	シラセリア剤		40~100本 /10a(8g/100本製剤)		成虫発生初期 から終期	ティスベ [®] シ-を対象作物の 枝に巻き付け設置する。		
	オクトラン水和剤	アセフェート水和剤	1B	1000~1500倍	200~700 ^μ g/10a	発生初期	散布		5回以内
	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	1B	1000~1500倍	200~700 ^μ g/10a	発生初期	散布		5回以内
	バシレックス水和剤	BT水和剤	11A	1000倍	200~700 ^μ g/10a	発生初期	散布		-

(8) 花き類(草本植物)・観葉植物 RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
青枯病	ガスタート [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	トクロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り3~6mL<圃場>1穴当り2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	バアミド [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
萎黄病	ガスタート [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バアミド [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	ガスタート [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
萎凋病	バアミド [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	ガスタート [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バアミド [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
萎黄病(ガリウム菌)	クロルピクリン	クロルピクリンくん蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り3~5mL<圃場>1穴当り2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	トクロール	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り3~6mL<圃場>1穴当り2~3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	アンピルフロアブル	ヘキサゴン [®] ール水和剤	3		1000倍	150~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発病初期	散布	7回以内	ばら、きくを除く
うどんこ病	エコビ [®] タ液剤	エコビ [®] タ液剤	還元澱粉糖化物「-」液剤			100~200倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$ /10a	発生初期	散布	
	ガッテン乳剤	7ルチニル乳剤	U13		5000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発病前~発病初	散布	2回以内	
	カリグリーン	炭酸水素カリウム水溶液	NC		800倍	150~500 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発病初期	散布	-	きくを除く
株腐病	サンクリスタル乳剤	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド [®] 乳剤	「-」		600倍	150~500 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	-	散布	
	パンチョTF顆粒水和剤	シフルエナミド・トリアルミゾール水和剤	3,U6		2000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	-	散布	2回以内	
	ボリオキシNAL水溶液	ボリオキシソ水溶液	"「-」(*)		2500倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発病初期	散布	8回以内	
株腐病	モリスタン水和剤	キキリン系水和剤	"UN(*)		2000~3000倍	100~300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発病初期	散布	10回以内	カーネーションを除く
	ガスタート [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バアミド [®] 微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20~30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
株腐病	リゾレックス水和剤	トルクロスマチル水和剤	14		500～1000倍	3 $\frac{g}{m^2}$	生育期	土壌灌注	5回以内	
球根腐敗病	ガスタード [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースミド [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
菌核病	トップジンM水和剤	チオファネートメチル水和剤	1		1500倍	100～300 $\frac{g}{m^2}$ /10a	-	散布	5回以内	トルコギキョウを除く
茎腐病	リゾレックス水和剤	トルクロスマチル水和剤	14		500～1000倍	3 $\frac{g}{m^2}$	生育期	土壌灌注	5回以内	
黒斑病	ボリキシンAL水溶液	ボリキシン水溶液	"「-」(1*)		2500倍	100～300 $\frac{g}{m^2}$ /10a	発病初期	散布	8回以内	
根頭がんしゅ病	ガスタード [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースミド [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
首腐病	ガスタード [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースミド [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
白絹病	ガスタード [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースミド [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
立枯病	ガスタード [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースミド [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
苗立枯病(リゾクトニア菌)	リゾレックス水和剤	トルクロスマチル水和剤	14		500～1000倍	3 $\frac{g}{m^2}$	生育期	土壌灌注	5回以内	
	リゾレックス粉剤	トルクロスマチル粉剤	14		50kg/10a		定植前	土壌混和	1回	
灰色かび病	ガスタード [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	バースミド [®] 微粒剤	ダゾメット微粒剤	"8F(1*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
アエットプロアール	アエットプロアール	ペンチセラト [®] 水和剤	7		2000倍	100～300 $\frac{g}{m^2}$ /10a	発病初期	散布	3回以内	さく、ゆり、フェーリス、りんどうを除く
ゲッター水和剤	ゲッター水和剤	シエトエンカルブ・チオファネートメチル水和剤	1,10		1000倍	100～300 $\frac{g}{m^2}$ /10a	-	散布	5回以内	ひまわり、ゼラニウムを除く

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
灰色かび病	セバ [®] ア-707アル20	7ルジ [®] オシニル水和剤	12		1000倍	100～300L/10a	発病前～発病初	散布	4回以内	
	チオクワアアル	チカラム水和剤	M3		500倍	100～500 ^g /10a	発病初期	散布	6回以内	りんどうを除く
	トレノックスアアル	チカラム水和剤	M3		500倍	100～500 ^g /10a	発病初期	散布	6回以内	りんどうを除く
	フルビ [®] カ707アル	メバ [®] ニビ [®] リム水和剤	9		2000～3000倍	100～300 ^g /10a	発病初期	散布	5回以内	ばら、スターチス、宿根かすみそう、ゆり、りんどうを除く
半萎凋病	ポ [®] リキシンAL水溶剤	ポ [®] リキシン水溶剤	"[-]"(I*)		2500倍	100～300 ^g /10a	発病初期	散布	8回以内	
	ポ [®] リ [®] 水溶剤	イミクダジ [®] 酢酸塩・ポ [®] リキシン [®] 水溶剤	"[-]"(I*),M7		1000倍	100～300 ^g /10a	発病初期	散布	8回以内	ストック、スターチス、フェリッパ [®] 、ばら、クルマ、さくを除く
	ガスタード [®] 微粒剤	ダゾ [®] メット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
ト [®] クロール		クロルビ [®] クリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当たり3～6mL<圃場>1穴当たり2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	バ [®] スアミド [®] 微粒剤	ダゾ [®] メット粉粒剤	"8F(I*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	ホ [®] ンゾイ [®] 水溶剤80	ホ [®] ンゾイ [®] 水溶剤80	キャ [®] タ [®] 水和剤	M4		種子重量の0.2～0.4%		は種前	種子処理機による種子粉衣	
ア [®] ザ [®] リ [®] ク [®] ト [®] 7	ホ [®] マイ水和剤	ホ [®] マイ水和剤	チカラム・チオア [®] ネートメチル水和剤	1,M3		種子重量の1.0%		は種前	種子処理機に観葉植物適用外	
リ [®] ク [®] ト [®] 7	バ [®] シタ [®] ク水和剤75	メ [®] ロニル水和剤	7		乾燥種子重量の0.4%		は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	観葉植物適用外
ア [®] オ [®] シ	モ [®] ット水和剤	7		種子重量の0.5～1000倍	100～300 ^g /10a	発生初期	は種前	種子処理機による種子粉衣	1回	観葉植物適用外
ア [®] ザ [®] ミ [®] ム [®] 類	オ [®] ルト [®] 水和剤	ア [®] セ [®] エート水和剤	1B		1000倍	100～300 ^g /10a		散布	5回以内	
	ス [®] ミ [®] オン [®] 乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100～300 ^g /10a		散布	6回以内	
	ア [®] ク [®] リ [®] メ [®] ク	ア [®] バ [®] メ [®] ク [®] チ [®] ン [®] 乳剤	6	劇	500倍	100～300 ^g /10a	発生初期	散布	5回以内	ガ [®] ベ [®] ラを除く
	ア [®] ア [®] ム [®] 乳剤	エ [®] マ [®] ク [®] チ [®] ン [®] 安息 [®] 香 [®] 酸 [®] 塩 [®] 乳剤	6		2000倍	100～300 ^g /10a	発生初期	散布	5回以内	
オ [®] ルト [®] 水和剤	ア [®] セ [®] エート水和剤	1B		1000～1500倍	100～300 ^g /10a	発生初期	散布	5回以内		
オ [®] ルト [®] 粒剤	ア [®] セ [®] エート粒剤	1B		3～6kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内	さく、宿根スターチス、カ [®] ネ [®] ジョ [®] ン [®] 、ア [®] リ [®] ム [®] 、た [®] であ [®] い [®] を除く	
オ [®] ン [®] コ [®] ル [®] 粒剤5	バ [®] ソ [®] ラ [®] カル [®] 粒剤	1A		6kg/10a		生育期	株元散布	3回以内	さく、ストックを除く	
ス [®] ミ [®] オン [®] 乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100～300 ^g /10a		散布	6回以内		

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
アザミカマ類	ダブールシュターSE	脂肪酸グリセリド・スビノサド水和剤	「-」,5		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	2回以内	
	ディナSC	スビネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	2回以内	りんどうを除く
	ハチハチプロアール	トリエンピラト水和剤	"21A(1*)	劇	1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	4回以内	
	モスピラン顆粒水溶剤	アセミピラト水和剤	4A	劇	2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	5回以内	ストック、りんどうを除く
	アデイオン乳剤	ベルメリン乳剤	3A		2000～4000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	6回以内	はぼたんを除く)
アブラムシ類	アトマイヤプロアール	イミダクロプリド水和剤	4A	劇	2000倍	100～200 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	5回以内	きくを除く
	エビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	-	
	ホルラン水和剤	アセエト水和剤	1B		1000～1500倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	5回以内	
	ホルラン粒剤	アセエト粒剤	1B		3～6kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内	きく、宿根スターチス、カーネーション、アリウム、たであいを除く
	コルト顆粒水和剤	ピリプロキゾール水和剤	9B		4000倍	100～300L/10a	発生初期	散布	4回以内	
	スカウトプロアール	トラロメトリン水和剤	3A	劇	2000～3000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	-	散布	5回以内	宿根かすみそう、グラジオラス、トルコキキョウ、りんどうを除く
	フェイス顆粒水和剤	ピメトジール水和剤	9B		5000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	4回以内	
	バースコート水溶剤	ニラピラム水溶剤	4A		1000～2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	4回以内	ばら、きくを除く
	バースコート粒剤	ニラピラム粒剤	4A		1～2g/株		発生初期	生育期株元散布	4回以内	きく、きんせんかを除く
					3～5g/培土 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$		定植前	培土混和	1回	きく、きんせんかを除く
モスピラン類	モスピランゼット	アセミピラトくん煙剤	4A	劇	くん煙室容積400立方 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ (床面積200 m^2 ×高さ2m)当り50g		発生初期	くん煙	5回以内	トルコキキョウを除く
	モスピラン顆粒水溶剤	アセミピラト水和剤	4A	劇	2000～4000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	5回以内	ストック、りんどうを除く
	ロドイール乳剤	フェプロパトリン乳剤	3A	劇	1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	-	散布	6回以内	
	アクセルプロアール	メタルピリン水和剤	22B		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	6回以内	きくを除く
	アアーム乳剤	エマクチン安息香酸塩乳剤	6		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	5回以内	
アザミカマ類	ディナSC	スビネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	2回以内	りんどうを除く
	フェニックス顆粒水和剤	フルベジンアミト水和剤	28		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	4回以内	きく、りんどうを除く
	プロオプロアール	ピリタリル水和剤	UN		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{株}}$ /10a	発生初期	散布	4回以内	
ナメクリン3	メタルピラト粒剤	「-」		1～3kg/10a		-	株元散布	6回以内		

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
カメムシ類	アデイオン乳剤	ベムトリン乳剤	3A		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	6回以内	はぼたんを除く
	エビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100～200倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	-	
	コルト顆粒水和剤	ビリフルナゾール水和剤	9B		4000倍	100～300L/10a	発生初期	散布	4回以内	
	フェス顆粒水和剤	ビメトジール水和剤	9B		5000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	4回以内	
	ディナSC	スピネトラム水和剤	5		2500倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	2回以内	りんどうを除く
	バスタート水溶剤	ニトラピラム水溶剤	4A		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	4回以内	ばら、きくを除く
	ラナーブ	ビリアロキシフェン剤	7C		50 $\text{m}^2/10\text{a}$		栽培期間中	作物体の付近に設置する。	1回	施設栽培
	トクロール	クロロピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り3～6mL<圃場>1穴当り2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)	
	ナメクリン3	メタアルデヒド粒剤	「-」		1～3kg/10a			株元散布	6回以内	
	ネキリンシ類	トクロール	クロロピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り3～6mL<圃場>1穴当り2～3mL			土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)
ネコブセンチュウ	ネキリンイト	ベムトリン粒剤	3A		3g/㎡		生育初期	株元散布	6回以内	
	ガスタード微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
ハシロコトク	ハスタード微粒剤	ダゾメット粉粒剤	"8F(*)	劇	20～30kg/10a		は種又は植付前	本剤の所定量を均一に散布して土壌と混和する。	1回	
	フェニックス顆粒水和剤	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	28		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	きく、りんどうを除く
	フレオフロアル	フレオフロアル	ピリダリル水和剤	UN		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	
	マッチ乳剤	マッチ乳剤	ルフェスロノ乳剤	15		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	きくを除く
	アグリメック	アグリメック乳剤	6	劇	500倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	5回以内	ガーベラを除く
ハダニ類	エビタ液剤	還元澱粉糖化物液剤	「-」		100倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	-	
	カネマイトフロアル	アセピル水和剤	20B		1000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$		散布	1回	ばら、きく、カーネーション、デルフィニウムを除く
	コテツフロアル	クロルピエピル水和剤	13	劇	2000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	2回以内	きく、ストックを除く
	サンクリスタル乳剤	脂肪酸グリセリド乳剤	「-」		600倍	150～500 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$		散布	-	
	ダニサラフロアル	シフルメトフェン水和剤	25A		1000倍	100～350 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	2回以内	
	ダニトロフロアル	フェンピロキシメト水和剤	21A		1000～2000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	1回	
	テラオン乳剤	テトラジホン乳剤	12D		500～1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{10\text{a}}$	発生初期	散布	10回以内	

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数	備考
ハダニ類	ニツラン水和剤	ヘキチゾックス水和剤	10A		2000～3000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	-	散布	2回以内	
	バロックアブガル	エトキサゾール水和剤	10B		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	1回	
	ビラカEW	テブフェンブト乳剤	"21A(*)	劇	2000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	1回	カーネーション、きくを除く
	アトイ乳剤	フェンプロパトリン乳剤	3A	劇	1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	-	散布	6回以内	
	粘着くん液剤	デンプン液剤	「-」		100倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	-	
	粘着くん液剤	ヒドロキシピル化リン酸架橋「-」 デンプン液剤	「-」		100倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	-	
	ミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	-	散布	6回以内	
	アトイオン乳剤	ペルメトリン乳剤	3A		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	6回以内	はばたんを除く
	ミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	-	散布	6回以内	
	アクト顆粒水溶剤	チマトキサム水溶剤	4A		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	6回以内	宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く
アブメダカ類	アブメダカ乳剤	エマクチン安息香酸塩乳剤	6		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	5回以内	
	アトイSC	スピネトラム水和剤	5		2500～5000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	2回以内	りんどうを除く
	ドロコロ	クロルピクリン燻蒸剤	8B	劇	<床土・堆肥>1穴当り3～6mL<圃場>1穴当り2～3mL		土壌くん蒸	2回以内(床土1回以内、圃場1回以内)		
マメコガリバエ	トリガード液剤	シロダリン液剤	17		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	4回以内	
	アクト顆粒水溶剤	チマトキサム水溶剤	4A		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	6回以内	宿根アスター、トルコギキョウ、きくを除く
ヨトウムシ類	コテツアブガル	クロルフェニル水和剤	13	劇	2000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	2回以内	きく、ストックを除く
	アトイ乳剤	ペルメトリン乳剤	3A		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	6回以内	はばたんを除く
	アブメダカ乳剤	エマクチン安息香酸塩乳剤	6		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	5回以内	
オムシ類	オムシ水和剤	アセフェート水和剤	1B		1000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	5回以内	
	オムシ顆粒剤	アセフェート顆粒剤	1B		6kg/10a		発生初期	株元散布	5回以内	きく、宿根アスター、カーネーション、アリウム、たであいを除く
	コテツアブガル	クロルフェニル水和剤	13	劇	2000倍	150～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	2回以内	きく、ストックを除く
ノミ類	ノミ乳剤	テラメクトリン乳剤	15		2000倍	100～300 $\frac{\mu\text{L}}{\text{10a}}$	発生初期	散布	2回以内	

(9) 樹木類(木本植物)

RPA

病害虫名	薬剤名	農薬の種類	RAC	毒劇	使用濃度	使用量	使用時期	使用方法	使用回数
うどんこ病	トップジンM水和剤※	チオアネートメチル水和剤	1		1000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
	トリノシン水和剤	トリアルジール水和剤	3		3000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
枝枯細菌病	ペンコセブ水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	新梢伸長期～発病初期	散布	4回以内
	トップジンMベスト	チオアネートメチルベスト剤	1		原液		剪定整枝時、病患部削り取り直後、及び病枝切除後	塗布	5回以内
炭疽病	トップジンM水和剤※	チオアネートメチル水和剤	1		1000～2000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
	ペンコセブ水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	4回以内
斑点症(シュートサージボウ菌)	トップジンM水和剤※	チオアネートメチル水和剤	1		1000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
	ペンコセブ水和剤	マンゼブ水和剤	"UN(I*)		600倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	4回以内
輪紋葉枯病	トップジンM水和剤※	チオアネートメチル水和剤	1		1000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
	カルラン水和剤	アセト水和剤	1B		1000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発病初期	散布	5回以内
アザミマダラ	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	6回以内
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		500～1000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	6回以内
アザミカサネトリ	ダイジノク水和剤34	ダイジノク水和剤	1B	劇	1000～1500倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発生初期	散布	4回以内
	トコロ水和剤CT	BT水和剤	11A		1000～2000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発生初期	散布	-
オオハシテフエウ	ニトリア<アメシロ>	フォルウェブル剤			直線使用(街路樹など)40m当り1個以上		成虫発生初期から発生後期	本剤をトラップ1台当り1個貼付け、地上1～6mの高さに設置する。	
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		500倍	-	成虫発生初期から発生後期	本剤をトラップ1台当り1回	1回
ホトケハ	トボシ乳剤	エトエンゾックス乳剤	3A		2000倍	100～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	幼虫発生期	散布	6回以内
	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	6回以内
クダシ類	スライカ-700アール	フルンゾアミト水和剤	28		8000倍		発生初期	散布	2回以内
	トボシ乳剤	エトエンゾックス乳剤	3A		4000倍	100～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	幼虫発生期	散布	6回以内
クダシ類(若～中齢幼)	デミリン水和剤	ジフルンゾックス水和剤	15		4000～8000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	3回以内
	トボシ乳剤	エトエンゾックス乳剤	3A		4000倍	100～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	幼虫発生期	散布	6回以内
トビモオカエダシヤク	バシックス水和剤	BT水和剤	11A		500～1000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発生初期	散布	-
	バロック700アール	エトキサール水和剤	10B		2000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	発生初期	散布	1回
フタバウグムシ	スミチオン乳剤	MEP乳剤	1B		1000倍	200～700 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a	-	散布	6回以内

※ つつじ類、じんちょうげ、ぼけの使用量は100～300 $\frac{\text{g}}{\text{L}}$ /10a

〈参考1〉 花きのアブラムシ類の防除薬剤

作目欄:◎防除指針に採用
○登録のあるもの

浸透移行性:○あり
△弱い
×なし

分類	分類コード	薬剤名		人畜毒性	浸透移行性		作用性		キ	スト	ツ	ク	ユ	トルコギキョウ	花き類・観葉植物	キクにおける他の適用害虫等		
		一般名	商品名		浸達性	移行性	効果発現	効果持続										
有機リン系	1B	アセフエー	オルトラ	ラエン粒剤		○	○	長	○						◎	アザミウマ類、ネキリムシ類、ハモグリバエ類、ヨトウムシ類		
			ジエイエー	ス粒剤		○	○	長	○						○		アザミウマ類、◎マメハモグリバエ	
		M	E	オ	ラエン水溶剤		○	○	長	○						◎	◎マメハモグリバエ、オオタバコガ	
				ス	ミチオン乳剤		○	×	長	◎							○	アザミウマ類、マメハモグリバエ、オオタバコガ
		P	A	オ	ルサオン乳剤	劇	○	×	長	*								フラーバラゾウムシ、カメムシ類、ヨトウムシ類
				ス	クチオン乳剤		×	×	長	○								*キクヒメゲナガアブラムシのみ
		アラニカ	1A	ブルバ	オ	リオン水和剤40	劇	○	×	長	◎							フラーバラゾウムシ、◎アザミウマ類、ハダニ類
					ト	マブリック水和剤20	劇	×	×	長	○							◎ハスモンヨトウ、オオタバコガ
		合成ピレスロイド系	3A	シペル	メ	トリアフロアブル	劇	○	×	長						○		
					メ	トリアフロアブル	劇	×	×	中	○							
ペルメ	トリア			メ	トリアフロアブル		×	×	中							◎		
				メ	トリアフロアブル		×	×	中									
アクト	トリア			メ	トリアフロアブル		×	×	長	◎								ハダニ類、◎ミカンキイロアザミウマ
				メ	トリアフロアブル		○	×	中	○								
エトフ	プロパ			ク	ス乳剤		○	×	中									
				ク	ス乳剤		×	×	中									
アセタ	プロパ			ク	ス乳剤	劇	○	×	中									
				ク	ス乳剤	劇	○	×	中									
ネオニコチノイド系	4A	アセタ	ク	ス乳剤	劇	○	○	長										
			ク	ス乳剤	劇	○	○	長										
		イミダ	クプロ	ド	リアフロアブル	劇	○	○	長									アザミウマ類(キクは施設栽培のみ)
				ド	リアフロアブル	劇	○	○	長									コナジラミ類、ミカンキイロアザミウマ
		ニテ	ンピ	ム	ラム		×	○	長									◎ミカンキイロアザミウマ、マメハモグリバエ
				ム	ラム		○	○	長									
		チア	メト	キ	サム		○	○	中									ナモグリバエ、アザミウマ類、ハモグリバエ類、カメムシ類
				サ	ム		○	○	中									
		クノ	テフ	ラ	ン		○	○	長									
				ラ	ン		○	○	長									
ピメ	トロ	ジ	ン		○	○	長											
		ジ	ン		○	○	長											
ピリ	フル	キ	ナ		○	△	長											
		キ	ナ		○	△	長											
トル	フエ	ン	ピ		×	×	長									◎アザミウマ類、ハモグリバエ類、白さび病		
		ラ	ミ		○	○	長	◎										
還元	澱粉	糖	化	物	エ	コ		短										
					ピ	ピ		×	×	短								

アブラムシ防除薬剤使用上の注意事項

- 1 薬剤抵抗性アブラムシの発生を防止するため、同一薬剤、同一系統の薬剤の連用を避ける。
- 2 合成ピレスロイド系統の薬剤はリサージェンシ(虫の増加)に注意する。
- 3 マブリック水和剤20は高濃度での散布で汚れが残ることがある。

対象欄：○効果高い 浸透移行性：○あり
 △効果低い △弱い
 ×効果なし ×なし
 作目欄：◎防除指針に採用
 ○登録のあるもの

〈参考2〉 キクのハダニ類の防除薬剤

分類	分類コード	薬剤名		人畜毒性	対象			浸透移行性		作用性		キ	花き類・観葉植物
		一般名	商品名		成虫	幼虫	卵	浸達性	移行性	効果発現	効果持続		
テトラジホン	12D	テトラジホント	デオン乳剤		×	×	○	×	×	遅	長		◎
METI剤	21A	フェンピロキシメート	ダニトロンフロアブル	劇	○	○	△	×	×	速	長		○
合成ピレスロイド系□	3A	テブフェンピラド	ピラニカEW	劇	○	○	○	×	×	速	長		◎
		ビフェントリン	テルスター水和剤	劇	○	○	△	×	×	速	長		
ピロール	13	フェンプロパトリン	ロデイナー乳剤	劇	○	○	×	×	×	速	長		◎
エトキサゾール	10B	クロルフェナピル	コテツフロアブル	劇	○	○	○	○	×	速	長		◎
β-ケトニトリル誘導体	25A	エトキサゾール	バロックフロアブル		×	○	○	×	×	遅	長		◎
		シフルメトフェン	ダニサラバフロアブル		○	○	○	×	×	速	長		◎
アバメクチン系	6	シエノピラフェン	スターマイトフロアブル		○	○	○	×	×	速	長		◎
ハキシチアゾクス	10A	アバメクチン	アグリメック	劇	○	○	○	×	×	中	長		◎
		ヘキシチアゾクス	ニッソラックス		×	○	○	×	×	遅	長		◎
アセキシル	20B	アセキノシル	カネマイトフロアブル		○	○	○	×	×	速	長		◎
		デンプ	粘着くん液剤		○	○	×	×	×	速	短		◎
—	—	脂肪酸グリセリド	サニクスタル乳剤		○	○	○	△	×	速	長		◎
		還元澱粉糖化物	エココピタ液剤		○	○	×	×	×	速	短		◎

〈参考3〉 キクのアザミウマ類の防除薬剤

◎防除指針に採用 ○登録のあるもの

分類	分類コード	一般名	商品名	人畜毒性	キク		キクにおける他の適用害虫名	
					アザミウマ類	ミナミキイロ		
有機リン系	1B	プロチオホスト	トクチオン乳剤		◎		アブラムシ類 フラーバラゾウムシ ハダニ類	
カーバメート系	1A	ベンフラカルブ	オンコル粒剤 5		○	◎		
		カルボスルファン	ガゼット粒剤	劇		○	ネグサレセンチュウ・アブラムシ類	
			アドバンテージ粒剤	劇		○	ネグサレセンチュウ	
合成ピレスロイド系	3A	ビフェントリン	テルスターフロアブル	劇		○	ハダニ類	
		アクリナトリン	アーデント水和剤			◎	アブラムシ類・ハダニ類	
ベンゾイル尿素系	15	フルフェノクスロン	カスケード乳剤			◎	マメハモグリバエ	
		ルフェヌロン	マツチ乳剤		○		マメハモグリバエ、ハスモンヨトウ	
		クロルフルアズロン	アタブロン乳剤			○	シロイチモジヨトウ	
ネオニコチノイド系	4A	ニテンピラム	ベストガード水溶剤			○	コナジラミ類、アブラムシ類	
			ベストガード粒剤			◎	マメハモグリバエ、アブラムシ類	
		アセタミプリド	モスピラン粒剤		◎	○	アブラムシ類、ハモグリバエ類	
		イミダクロプリド	アドマイヤーフロアブル (施設栽培のみ)	劇	○		アブラムシ類	
			アドマイヤー1粒剤		○		アブラムシ類	
チアメトキサム	アクタラ顆粒水溶剤			○	ハモグリバエ類 ウスモンミドリカスミカメ			
アベルメクチン系 ミルベマイシン系	6	エマメクチン 安息香酸塩	アフアーム乳剤		◎			
ピロール	13	クロルフェナピル	コテツフロアブル	劇		○	◎	ヨウトムシ類・◎ハダニ類・オオタバコガ・アワダチソウゲンバイ
スピノシン系	5	スピノサド	スピノエース顆粒水和剤		◎		◎オオタバコガ・◎ハモグリバエ類	
METI剤	21A	トルフェンピラド	ハチハチ乳剤	劇	◎		白さび病・アブラムシ類・ハモグリバエ類	

<参考4> 花き類の灰色かび病の系統別薬剤

◎防除指針に採用
○登録のあるもの

分類	分類コード	一般名	商品名	キ	ス	ス	ユ	花き類・観葉植物	予防・治療剤別
				ク	スターチス	ツク	リ		
ジチオカーバメート (求電子剤)	M3	マンネブ	エムダイファー水和剤	◎					予防
		チウラム	チオノックフロアブル					◎	予防
			トレノックスフロアブル					◎	予防
MBC殺菌剤 + N-フェニルカーバメート	1 10	チオファネートメチル ・ ジエトフェンカルブ	ゲッター水和剤					◎	予防 治療
ジカルボキシイミド	2	イプロジオン	ロブラール水和剤		◎				予防 治療
ポリオキシシン + ビスグアニジン	19	ポリオキシシン	ポリオキシシンAL水溶剤					◎	予防 治療
	M7 19	イミノクタジン酢酸塩・ ポリオキシシン	ポリベリン水和剤	○	◎	◎		◎	予防 治療
AP殺菌剤 (アニリノピリミジン)	9	メパニピリム	フルピカフロアブル		◎		◎	◎	予防
無機化合物	M1	D B E D C	サンヨール	○	○			○	予防
SDHI殺菌剤 (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	7	ペンチオピラド	アフエットフロアブル	○			◎	◎	予防 治療
PP殺菌剤 (フェニルピロール)	12	フルジオキシニル	セイビアーフロアブル20					◎	予防

- 1) 施設の換気を良くし、湿度をできるだけ下げる。
- 2) 病葉は早めに摘除し、圃場外に持ち出して焼き捨てるか土中に埋め込む。
- 3) 同じ系統に属する農薬の連用は、耐性菌の発現を助長する。

<参考5> キク白さび病の防除薬剤

作用性の欄: ○効果あり

分類	分類コード	薬剤名		作用性		
		一般名	商品名	浸透性	予防	治療
無機化合物(求電子剤)	M2	硫黄	コロナフロアブル		○	
ジチオカーバメート (求電子剤)	M3	マンゼブ	ジマンダイセンフロアブル		○	
		アンバム	ステンレス	○	○	
SDHI殺菌剤 (コハク酸脱水素酵素阻害剤)	7	メプロニル	バシタック水和剤75		○	○
DMI殺菌剤 (脱メチル化阻害剤)	3	トリフルミゾール	トリフミン水和剤	○	○	○
		イミベンコナゾール	マネージ乳剤		○	○
		ヘキサコナゾール	アンビルフロアブル	○	○	○
		トリホリン	サプロール乳剤	○	○	○
		マイクロブタニル	ラリー乳剤	○	○	○
		プロピコナゾール	チルト乳剤25	○	○	○
QoI殺菌剤(Qo阻害剤)	11	クレソキシムメチル	ストロビーフロアブル	○	○	○
ピリミジンアミン	39	ジフルメトリム	ピリカット乳剤	○	○	○

〈参考6〉殺菌・殺虫剤使用時の注意事項

キク

薬剤名	注意事項
ガスタード微粒剤 バスアミド微粒剤	・水に触れると有毒なガスが発生するので保管・取扱いには注意する。
ストロビーフロアブル	・薬害防止のため、他剤との混用や展着剤は加用しない、高温多湿条件下では使用しない
ステンレス	・高温時で薬害が出やすいので注意する。
エムダイファー水和剤	・ボルドー液、石灰硫黄合剤などアルカリ性薬剤との混用はさける。

花き類(草本植物)・観葉植物

薬剤名	注意事項
ダニトロンフロアブル	・花に薬害が生じる場合があるので、注意する。
カリグリーン	・展着剤を加用する。
ポリオキシシAL水溶剤	・キクに使用する場合、薬害が生じる恐れがあるため、着蕾期以降は高温時の散布を避ける。
エコピタ液剤	・カーネーションで茎葉のワックス層が溶け、薬害が出やすいので注意する。

〈参考7〉 ウィルス一覧表

主な花き類のウィルス病と伝染方法

◎は重要ウィルス

花き名	病名	病原ウィルス	略号	伝染方法			
				接触	土壌	虫媒	媒介昆虫等
キ	えそ病	◎トマト黄化えそウイルス	TSWV	+	-	+	ミカンキイロアザミウマ他
		茎えそ病	キク茎えそウイルス	CSNV	-	-	+
	ウイルス病	トマトアスパーマイウイルス	TAV	+	-	+	アブラムシ類
		キクBウイルス	CVB	+	-	+	アブラムシ類
		キュウリモザイクウイルス	CMV	+	-	+	アブラムシ類
わい化病	◎キクわい化ウイロイド	CSVd	+	-	-		
ユ	ウイルス病	タバコモザイクウイルス	TMV	+	+		
		◎キュウリモザイクウイルス	CMV	+	-	+	アブラムシ類
		◎ユリ微斑ウイルス	LMoV	+	-	+	アブラムシ類
		◎ユリ潜在ウイルス	LSV	+	-	+	アブラムシ類
		リンゴステムグルーピングウイルス	ASGV	+	-	-	
スイセン	モザイク病	スイセン微斑モザイクウイルス	NMMV	+	-	+	
	ウイルス病	◎スイセン黄色条斑ウイルス	NYSV	+	-	+	
		スイセンモザイクウイルス	NMV	+	-	-	
		キュウリモザイクウイルス	CMV	+	-	+	アブラムシ類
		タバコ茎えそウイルス	TRV	+	(+)	-	センチュウ
		トマト輪点ウイルス	ToRSV	+	+	-	センチュウ
		トマト黒色輪点ウイルス	TBRV	+	(+)		センチュウ
		アラビスモザイクウイルス	ArMV	+	(+)	+	センチュウ
ソラマメウルトウイルス	BBWV	+	-	+	アブラムシ類		
トルコギキョウ	えそモザイク病	◎キュウリモザイクウイルス	CMV	+	-	+	アブラムシ類
	モザイク病	◎ソラマメウルトウイルス	BBWV	+	-	+	アブラムシ類
		インゲンマメ黄班モザイクウイルス	BYMV	+	-	+	アブラムシ類
	えそ病	トルコギキョウえそウイルス	LNV	+	+		オルピディウム菌 (カビの一種)
	えそ輪紋病	アイリス黄斑ウイルス	IYSV	-	-	+	ネギアザミウマ他

+:伝染する、 -:伝染しない

(+)スイセンでは知られていないが、他の植物では確認されている。

2 花き除草剤

(1) 使用上の注意事項

- ① 使用薬量は散布実面積当りの量を厳守する。
- ② 土壌処理剤は整地後または畦立後表土を均平にし、土壌表面に均一に散布する。表土が乾いている場合は雨が降ってから散布する。
- ③ 粘土質の透水の悪い圃場では薬量を減らす。砂質地は薬効が少なく、薬害が出易いので注意する。
- ④ 土壌処理後、敷わら、もみがらマルチの併用は抑草効果を高める。
- ⑤ マルチ、トンネル、ハウスでは薬害が出易いので薬量を少なめにする。また、極端な高温乾燥時は散布しないようにする。
- ⑥ 散布にあたっては、除草剤専用の散布器具を使用し、噴口は必ずフード付きのものを使用する。
- ⑦ 散布にあたっては、メガネ、マスク、防除衣、手袋などを必ず着用する。

(2) 使用方法

作物名	除草剤名	適用雑草名	使用基準		10アール当たり使用量		注意事項
			時期	回数	薬量	希釈水量	
ユリ	トリアノキサイド乳剤 トリフルリン 44.5% ☉	一年生雑草 (ツユクサ科、カヤウグサ科、 キク科、アブラムシ科)	植付後 ～ 萌芽前	1	200～300 ml	100 ℓ	<全面土壌散布> ・散布は均一に、または夕方や曇った日に実施する。 ・土壌が乾燥している場合、土壌を適当に湿らせるか、あるいは降雨後に散布する。
スイセン			萌芽前	1	200～300 ml	100 ℓ	
キク (露地栽培)			定植後	1	200～300 ml	100 ℓ	
スイセン	プリグロックSL ジクワット 7.0% パラコート 5.0% ☉	一年生雑草	萌芽前 (雑草生育期)	3	600～1,000 ml	100～150 ℓ	<雑草茎葉散布> ・医薬用外毒物。取扱いには特に注意する。 ・有用作物に飛散させない。
			畦間処理: 雑草生育期 (草丈20cm以下)				
花き類・ 観葉植物 (チューリップ、スイセンを 除く)			畦間処理: 雑草生育期 (草丈20cm以下)	3	600～1,000 ml	100～150 ℓ	
キク	ゴーゴーサン乳剤 ペンディメタリン 30.0%	一年生雑草	定植前 (雑草発生前)	1	200～400 ml	70～150 ℓ	<全面土壌散布> ・キク科雑草とツユクサには効果が劣る。 ・土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので、希釈水量を多めにするか降雨後に散布する。
			定植後 (雑草発生前)				

作物名	除草剤名	適用雑草名	使用基準		10アール当たり使用量		注意事項	
			時期	回数	薬量	希釈水量		
キク	ナブ乳剤 セトキシム 20.0%	一年生 イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 イネ科雑草 3～5葉期	3	150～200 ml	100～150 ㍓	<雑草茎葉散布又は 全面散布> ・効果が発現するまでに 7～10日を要する。 ・広葉雑草およびカヤ ツリグサ科には効果が ない。	
樹木類	ナブ乳剤 セトキシム 20.0%	一年生イネ科雑草 (スズメノカタビラを除く)	雑草生育期 イネ科雑草 3～5葉期	3	150～200 ml	100 ㍓	<雑草茎葉散布又は 全面散布>	
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	一年生雑草	雑草生育期	3	300～500 ml	100～150 ㍓	<雑草茎葉散布>	
樹木等 (公園・庭 園・堤とう・ 駐車場・道 路・運動 場・宅地・ のり面・鉄 道など)	ブリグロックSL ジクワット 7.0% パコート 5.0%	一年生雑草	雑草生育期	3	800～1,000 ml	100～150 ㍓	<雑草茎葉散布> ・医薬用外毒物。取扱 いには特に注意する。 ・植栽地を除く樹木等 の周辺地。	
		多年生雑草			1,500～2,000 ml			
		スギナ	スギナ生育期		1,000～2,000 ml			
	バスタ液剤 グルホシネート 18.5%	一年生雑草	雑草生育期	3	500～1,000 ml	100～200 ㍓	<雑草茎葉散布> ・植栽地を除く樹木 等の周辺地。	
		多年生雑草			1,000～2,000 ml			
	タッチダウン iQ グリホサートカリウム塩 44.7%	一年生雑草	雑草生育期	3	250～500 ml	10～100 ㍓	<雑草茎葉散布> ・植栽地を除く樹木 等の周辺地。	
		多年生雑草			500～1,000 ml			
		スギナ	雑草生育期		1,500～2,000 ml			25～100 ㍓
		ススキ、クズ	雑草生育期		1,000～2,000 ml			50～100 ㍓
		ササ類	雑草生育期					
		雑かん木	雑草生育期					25～100 ㍓
	ラウンドアップ マックスロード グリホサートカリウム塩 48.0%	一年生雑草	雑草生育期	3	200～500 ml	通常散布 50～100 ㍓	<雑草木茎葉散布 > ・植栽地を除く樹木 等の周辺地。	
多年生雑草			500～1,000 ml		少量散布 25～50 ㍓			
一年生及び 多年生雑草					少量散布 5～25 ㍓			
スギナ			1,500～2,000 ml		通常散布			
ススキ、ヒレハリソ ウ、クズ等のつる性 多年生雑草、ササ 類、雑かん木			1,000～2,000 ml		50～100 ㍓ 少量散布 25～50 ㍓			
カソロン粒剤 4.5 DBN 4.5%	一年生雑草、 多年生広葉雑草	雑草発生前 ～発生始期	3	8～12 kg		<全面土壌散布> ・植栽地を除く樹木等 の周辺地。		
	スギナ			8～15 kg				

3 花き植物成長調整剤

◎使用上の注意

- ① 植物成長調整剤の使用にあたっては、登録内容を熟知し、適正に使用する。
極めて微量で作物に作用するので、生育状況、環境条件で効果が異なる。
- ② 農薬など他の薬剤との混用は避ける。

(1) 発根促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
オキシベロン液剤 インドール酪酸 0.4%	キ ク	500～1,000倍 100～200倍 2倍	— — —	1	・さし穂基部:3時間浸漬 ・さし穂全体:5～10秒浸漬 ・さし穂基部:10秒浸漬
	カーネーション	200～400倍 2倍	— —	1	・さし穂基部:16～24時間浸漬 ・さし穂基部:5秒浸漬 又はさし穂 100本当り10 mlをさし穂基部に散布
	ツ ツ ジ 類	40倍	6 ～ 7 月 (夏さし)	1	・3時間さし穂基部浸漬
	ドウダンツツジ	40倍 2倍	6 ～ 7 月 (夏さし)	1	・さし穂基部:3時間浸漬 ・さし穂基部:20秒浸漬
	花き類・観葉植物 (カーネーション、キク 及びチューリップを除く)	200～400倍 2倍	— —	1	・さし穂基部:12～24時間浸漬 ・さし穂基部:5～10秒浸漬
タチガレン液剤 ヒドロキシイソキサゾール 41.52%	キ ク	1,000倍	挿し芽直後	1	・土壌灌注 5～10 ℓ/m ²

(2) 親株栽培における側枝への腋芽の着生促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビーエー液剤 ベンジルアミノプリン [サイトカイニン剤] 3.0%	キ ク	2,000～4,000倍	摘 心 時	6	・茎葉散布 100～300 ℓ/10a ・無側枝性が強く発現する品種お よび高温期の栽培では、効果が 劣る場合がある。

(3) 伸長抑制

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビーナイン顆粒水溶液 ダミノジット 80.0%	キ ク (ポットマム) (施設栽培)	200～400倍	摘心後7～10日 又は定植3日後 から発蕾初期	3	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 5～10 ml/5号鉢
			生 育 期	4	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a
	キ ク (切花用) (施設栽培)	500～5,000倍	発 蕾 期 ～ 摘 蕾 期	2	・花首の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ビーナイン顆粒水溶液 ダミノジット 80.0%	ハ ボ タ ン (施 設 栽 培)	200～400 倍	子 葉 展 開 後 鉢 上 げ 後	2	・節間の伸長抑制 ・茎葉散布 50～150 ℓ/10a
スミセブンP液剤 ウニコナゾールP 0.025%	キ ク (ポ ッ ト マ ム)	25～50 倍	摘 芯 10 日 後 頃	2	・節間の伸長抑制(矮化) ・茎葉散布 5～10 ml/5号鉢 (原液 0.1～0.2 ml/5号鉢) ・土壌灌注 50～100 ml/5号鉢 (原液 1 ml/5号鉢)
		50～100 倍	摘 芯 10 日 後 頃		
	パ ン ジ ー	50～100 倍	育 苗 期 本 葉 2 ～ 4 葉 期	1	・茎葉の伸長抑制による小型化 ・茎葉散布 0.5 ml/株
ビビフルフロアブル プロヘキサジオンカルシウム 塩 [ジベレリン生合成阻害 剤] 1.0%	キ ク	200～500 倍	摘 蓄 期	1	・花首の伸長抑制 ・茎葉散布 50～100 ℓ/10a ・総使用回数 2 回以内 ・白色系および黄色系品種で使 用する。 ・黄色系を除く有色品種では、 花色に影響することがあるので、 使用しない。
			発 蓄 期 及 び 摘 蓄 期	2	

(4) 開花促進、草丈伸長促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
ジベレリン液剤 ジベレリン[ジベレリン剤] 0.63%	キ ク	ジベレリン 25～100 ppm	生 育 期	2	・茎葉散布 50～100 ℓ/10a

(5) 開花抑制

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	
エスレル 10 エテホン[エチレン剤] 10.0%	キ ク	500～1,000 倍	摘 芯 時 又 は 定 植 後 1 週 間 以 内 及 び そ の 後 10 ～ 14 日 毎	3	・全面散布(株全体がぬれる程度) 2～10 ml/株 ・開花抑制
	キ ク (電 照 栽 培)	500 倍	親 株 摘 芯 時		

(6) 開花促進

薬 剤 名	対 象 作 物	希 釈 倍 数	使 用 基 準		使 用 方 法 及 び 注 意 事 項
			時 期	回 数	

ビビフルフロアブル プロヘキサジオンカルシウム 塩[ジベレリン生合成阻害 剤] 1.0%	ス ト ッ ク	1,000 倍	葉数 10~14 枚時 とその 7~10 日後	2	・茎葉散布 100 ℓ/10a
---	---------	---------	----------------------------	---	-----------------